

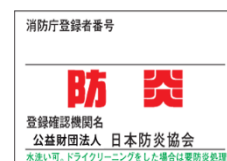
お年寄りや子どもたちを火災から守ろう

住宅火災による死亡者の7割以上が高齢者（65歳以上）、乳幼児、病気・怪我等で体の不自由な方で占めています。こうした方々の安全について家族や隣近所で日頃から気を配ってあげましょう。

☆ 高齢者（65歳以上）、病気・怪我等で体の不自由な方の寝室、居間は安全なところにありますか？
火事が起きたら素早く外に逃げられるように1階の玄関や縁側、裏口などの出入口近くの避難しやすい場所で寝起きするようにしましょう。



☆ 寝具、衣類、カーテンなどは燃えにくい素材の防災製品を使いましょう。
防災製品には下のようなラベルがついています。



防災物品(じゅうたん・カーテン等)



防災製品(寝具・パジャマ等)



※ 洗濯すると防災性能が無くなるものや、ドライクリーニングすると防災性能が無くなるものがありますので、注意して下さい。

☆ 高齢者（65歳以上）、病気・怪我等で体の不自由な方はできるだけ一人きりにしないようにしましょう。やむを得ずひとりにする場合は、隣近所の人に声をかけていくようにすると安心ですね。また、一人暮らしの方が隣近所にいる場合は普段から気に掛けてあげましょう。



☆ 仏壇のお線香は拝んでいる時だけ火を点け、ロウソクは使わないで電球式の物にしましょう。



☆ 住宅火災による死亡原因の第1位は逃げ遅れです。どうして、逃げ遅れるのでしょうか？

1 寝ていて気付くのが遅れる

就寝中は異変に気付きにくく、炎に包まれるまで気付かない。

2 火災で発生する一酸化炭素を吸ってしまう

無色無臭の一酸化炭素を吸ってしまうと、体の自由が利かなくなり、火災に気付いても逃げられないのです。

では、逃げ遅れをなくすためには？

火災の発生を早期に知らせてくれる住宅用火災警報器の設置が最も有効です。

既に法令により、設置が義務付けられています、まだ設置されていない方は、直ぐに設置して下さい。



☆ 子供たちが亡くなった火災原因の第1位は火遊びです。幼い子供たちだけを残して外出する事は大変危険です。できるだけ知人や隣近所の人に預かってもらうようにしましょう。

子供たちは好奇心が強く、大人の真似をしたがります。マッチやライターは、子どもの手の届く所に置かないようにし、日頃から火災の恐ろしさを教える事が大切です。

